



保育園だより

2024.10.01 No.597
河田保育園

今年の9月は残暑厳しい日々でしたが、ようやく秋を感じられるようになりました。園庭では、落ち葉が毎日生い茂り、子どもたちは落ち葉拾いを楽しんでいます。

早いもので2024年度も上半期が終了しました。そして、いよいよ秋の行楽シーズン到来です。保育園では、「10月20日(日)羽根木公園」にて、運動会を開催します。

現在、子どもたちは松森先生をはじめ各先生指導のもと、運動会に向け、頑張っており取り組んでいる最中です。ご父母の皆さんはきっと楽しみにのことでしょう。どうぞ応援よろしくをお願いします。

先週の引取訓練にご協力いただきありがとうございました。大型地震、首都直下型地震は年70%の確率で発生と言われています。調査では南海トラフのみならず、東京湾にも発生源があるとされ、万一に備え耐震・耐火・防犯・食料備蓄を高めなければなりません。当園では、非常時用備蓄として3000食(100人×10日×3食)、飲料水2屯(2L×1000本)、かまど2セット、スタンドパイプなど備えてあります。園庭西の「みんなの公園」には防災公園として100屯の防火水槽を設備しています。

先日、東京都の助成金で非常用電源装置(ポータブル電源)及びソーラーパネル。また、世田谷区の助成金でAEDを購入しました。皆様のご自宅にも万が一に備えましょう。

子どもの“生き抜く力”を育てる

「毒親」という言葉があります。子どもを愛しているからこそ、要求のレベルを上げて、行動を縛ってしまう親のこと。自分が叶えられなかった夢を託したり、自分と同じように生きることを要求する。気持ちはわかりますが、そんなふうには縛ってしまうと、子どもはつらくなってつまづいてしまいがち。親子の断絶も引き起こしかねません。

特にお母さんは、自分のお腹の中で約40週かけて子どもを育てるので、「一心同体」との思いが心に刷り込まれやすいのではないのでしょうか。しかし、子どもは親のコピーでも従属物でもありません。父親と母親からDNAをもらっていて、どちらのものでもない新しい個体……。つまり、かけがえのない存在です。

そこで、一個人として子どもを認めて接し、自立して生きていけるようにしてあげるのが親の務め。そうして助け合い、尊敬し合える関係を作る。これが子育てをする親の役割でしょう。

1. 得意技を持たせる。
2. 褒められる快感を覚えさせる。
3. 感動する心を与える。
4. 我慢する力を養う。
5. 求めすぎない。

大人としてちゃんと生きていけるように厳しく接するのも愛情の表現ですが、やはり人格を尊重する姿勢が大事でしょう。

時にはいい刺激を与えたり、守ってあげたりするうちに、親と子という枠を超えて、助け合い、尊敬し合える関係になっていくのではないのでしょうか。

親がそんな意識を持っていれば、子ども自身の中に“生き抜く力”が育まれていくのではないのでしょうか。



10月行事予定表

10月08日(火)	運動会総練習	羽根木公園	幼児G
20日(日)	運動会 (雨天延期)	々	全園児・父母
22日(火)	運動会予備日		
23日(水)	10月の誕生会	保育園	全園児
々	避難訓練	々	々
30日(水)	ハロウィンP	々	々
	々	商店街	ぞう組
下旬	身体測定	保育園	全園児



たんじょうび

おめでとうございます!

10月うまれのおともだち

ぞう組 しんま ゆうすけ さん 2018年10月18日生まれ

増える「コミット男子」専業主夫もちらほら

ここ10年ほどで、男性の家事・育児に対する向き合い方は大きく変わったと感じられます。30代ぐらいの男性は家事・育児をすることに躊躇する様子はないようです。

20代、30代男性の育休取得率は年々アップしていますし、就職活動中の男子学生の9割は育休を取得したいと思っているようです。いっぽう既婚男性の中には「男の矜持(きょうじ)を保つために家事・育児はしない」と話すような、昭和の価値観を継承している男性もいるようです。こういう夫を「ノーコミット男子」と言い、昔は8割を占めていたのですが、昨年の調査では7割に減ったそうです。家事・育児に積極的に参加する「コミット男子」が3割ですから、まだまだ比率は低いわけですが、着実に変化は起きています。特に今の30代は共働きを基本として家計を維持しているのだから、夫も家事・育児をするのを当たり前と考えていますから、今後ますます「コミット男子」は増えていくはずですよ。

昨今は妻のほうが収入の多いケースもよくありますし、会社も女性にキャリアの継続を期待してもいます。すると、妻の栄転、海外赴任という話も出てきます。そのことをきっかけに「主夫」になる人も、少数ではありますが出始めています。

企業側は、大企業なら有価証券報告書に男性育休の取得率と男女の賃金格差を開示しなければならなくなりました。就活生や転職者も働き方の柔軟性や男性育休が取得しやすい会社かどうかを見て会社を選ぶ傾向があり、この流れはますます強くなるでしょう。

